

年中組では、わが国の古典的な童話を教えることによって我が国

幼児としての教養をこの時期にちかくしたと思われる。そして年長組で道徳の基礎的概念を教えて、この三つによつて一応幼児期を完成しようとした気持がうかがわれ、この点も非常におもしろいと思われた。

## 幼稚園令制定に当つて 関西保育界の動き

岡田正章

幼稚園令制定十周年の記念講演会で、幼稚園令公布當時文部省の担当局長であった関屋龍吉氏は、その頃を回顧して、幼稚園令制定のため長い間各方面から強い陳情運動を受けたが、それが東京よりも主に関西の方の熱心な運動によるものであったと述べている。関西保育界的動きが幼稚園令制定に当つて大きな原動力となっていたことを示すものといえる。

幼稚園に関する規程が小学校令の一隅に寄生虫のように仮住いしているように、幼稚園の発展はおぼつかないと考えた関西保育界の動きは、明治四二年にその胎動がみられる。京阪神三市連合保育令雑誌の中から、新しく制定される幼稚園令の中にもられる内容についての期待が、大正十五年に公布された幼稚園令の内容となつている四つの点、すなわち幼稚園の普及をはかること、教育の資格待遇を高めること、幼稚園に託児所の機能をつけ加えること、保育内容の充実を期すことの各々を含んでいたと思われる。以下、この点

について考察しておきたい。

まず第一に幼稚園の普及については、欧米の保育事業と比較して我が国の現状が必ずしも満足すべきものではなく、特に義務教育年限の延長が実施されようとするに当つて、幼稚園の中に廃止されるものさえあらわれることを指摘し、幼稚園の将来が危いことを警告している。単独の勅令として幼稚園令を制定することが幼稚園に教育系統上正当な位置を与えるための形式的な条件であるとし、これによつて社会の幼稚園に対する認識を深め、劣勢の現状を何とかきりぬけ、転じて積極的には小学校と同数の程度に幼稚園を普及させようとしていた。このためには、市町村は財政の許す限り公立幼稚園を設立し、また関係当局は私立幼稚園に助成金を支出するよう提案している。

第二に幼稚園の普及を図るために、保母にすぐれた人材を得ねばならないとして、その待遇・資格の向上を期するよう提唱している。公立幼稚園長と保母が同じ資格をもちながら、公立小学校長と教員よりも低い待遇を受けていて、関西保育界の人々は長い間当局への建議を続けていたが、一向に改善されないことに強い憤りをいだき、新たに制定される幼稚園令にこのことを確保しようと努めている。

次に幼稚園に託児所の機能をつけ加えようとする要求は、既に明治四四年に開かれた連合会第一八回大会において表明されている。すなわち、協議題として、「幼稚園ノ入園児ノ年令満三才ノ制限ヲ廢シ……」をかけて、幼稚園が下層人民にその足手まといを除くよう利用できる施設となることを討議している。特に第一次世界大戦後は社会政策上の見地から幼稚園が改善されるよう提唱している。また託児所の増加という事実に直面しては、幼稚園と託児所

相互の間に密接な連絡を保つてゆかねばならない時代のきたことを指摘して、從来幼稚園関係者のみの集まりであつた連合保育会に、託児所の加入することを全員一致で可決している。形の上より質の面で既に早く両者の提携にふみきついたわけで、幼稚園令に規定されている幼稚園の性質にも、このようない新らしい課題のつけ加えられることを強く望んでいたと思われる。

第四の点、すなわち保育内容の充実については、関西保育界の要望は他の地域の人々のそれとかなり趣を異にしていたものと思われる。昨年刊行された兵庫県幼稚園史にも檜崎博士の回顧談において指摘されているように、望月くに女史を中心として関西保育界の中には、保育についての科学的研究が多忙な保育実践の中で熱心に続けられていた。大正一年第二九回連合保育会で、幼稚園令制定を其筋に促すに当つて、その内容として指摘した三項目の中二項目は、幼稚園保育の標準要目と幼児の心身の発育を科学的に研究せられたる教育標準とであった。當時保育界に一般的であった、保育内容は幼児の発達の多様性から一切各施設の自由にまかせられる性質のものであるという見解に対し、ここでは、科学的研究が多様性の中に一般性を発見するものであり、これに基く教育課程編成の一基準を示すことの意義深いことを主張している。また從来の保育四項目(遊戯・唱歌・談話・手技)よりも委しいものとしている要望は、新たに觀察を加える結果となつて影響を与えていた。

こうした理論的根拠をもつて、大正十三年開催の第四回全国幼稚園関係者大会で、まず大阪市保育会が全体議題として「幼児教育の振興を期するため、速かに幼稚園令を制定せられんことを其筋に建議すること」を提案している。また単に教育者だけの会合での決議に終ることなく、大正十四年には国会に対する請願運動となつてい

る。當時衆議院議員となつて山下健太郎は、かつては大阪市保育会の会員であったが、自ら「幼稚園令及び同施行規則制定に関する建議」を国会に上提出しているが、その動機が関西保育界の人達の熱意におされたものであつたことを述懐している。関西保育界の人達の幼稚園令制定に当つて果した役割の一端を叙述してこの小論を終る。

## 明治末と大正初期における

### 大阪の保育所の設立

宍戸 健夫

## シンポジウム 年少児保育の諸問題

司会 山下俊郎

保育現場(幼稚園)の立場から……奈良女子大学付属幼稚園長屋  
保育現場(保育所)の立場から……東京都立高等保母学院 鈴木  
発達心理学の立場から……大阪市立大学 大西 憲明  
小児医学の立場から……お茶の水女子大学 平井 信義  
教育学、主として保育制度の立場から……大阪学芸大学 小川 正通  
家庭の立場から……主婦 西本 美節